夢窓 幼稚園通信 第45号

2026年 10月 31日

日の暮れるのが ずいぶん早くなりました。
夕方 西の山々のシルエットが、刻々と変化するオレンジ色の中に浮かびあがるのが 何とも美しく、見ることができた日は その日一日のご褒美です！
そして 冷気と共に、夜がやってきます。 夜が長くなってくると、心は ゆっくりと内側に向かっていきますので、「読書の秋」もうなずけます。
それにしても「本」というのは、ひとつの生命(いのち)の源です。
人生を支えられたり導かれたり、潤いをいただいたり、筆者と生きる時代が異っても友だちになれたり・・・と、つくづくすごいものだと思います。

トーベ・ヤンソンさんの『ムーミンパパの思い出』は、赤ん坊のムーミンパパが紙袋に入れられ"みなしごホーム"に捨てられたところから始まります。 そこで育ったパパが杓子定規な施設からとび出し、冒険の旅にのりだす物語です。パパの書いた自叙伝の形式とムーミンたちがそれを聴くという構造で話しは進みますが、パパの若き日の冒険は痛快で、嵐にあったり、竜と戦ったり、おばけと同居したり・・・と大変な冒険の末 新しい村づくりを始めたり・・・、さいごは板きれにつかまって嵐の海を漂うムーミンママとの劇的な出会いをするファンタジー！ 冒頭、施設をこっそり抜け出すパパの置き手紙の中に、下記の言葉がありました。
高校生の時にフィンランド語で読もうと試み断念・・・仕方なく辞書を引きつつ読んだ英語です。

Life is short, the world is enormous!
人生はそう長くない でも大きな使命がわたしを待っている

こんな感じでしょうか ・・・ 物語の中のこの小さな言葉は、今でも 時々甦り、私を鼓舞してくれています。

「だいだいだいぼうけんのうた」を歌う子どもたちも、何かわくわくとした大切なことが待っていると、言葉にはでききれない思いを持って歌っているのかもしれません。
「読書の秋」も「食欲の秋」も「歌の秋」・・・も、今年の体験が内的な響きを持つ時、それらは自分の人生を貫いた贈り物となることでしょう。
それぞれのよき11月となりますように！

園長 外光 泰雄